



技術の担い手だよ

若手技術者編

技術者の中には異業種からの転職者も多い。その業種では向上が望めないなど理由は様々だ。株式会社サンコンサルは前職が接客業の小河さんを採用。金融危機をきっかけに建設業への転職を決めたが、測量は身近なものだったという。新しい道への意気込みや今後の目標など話を伺った。

● 技術職を選んだきっかけ

父が土地家屋調査士です。測量機器は見慣れていました。ただ、それが何のために使うものなのか、幼少時には理解できませんでした。そのため、最初の仕事も測量ではなく、好きを仕事にした釣具販売の会社に就職しました。

環境に変化が起ったのは、経済危機のリーマンショック（平成20年9月）です。日本経済も煽りを受け、釣具業界の売り上げも激減しました。このときに、父から「仕事を手伝わなさい」と誘われ、測量の仕事に携わることになりました。基礎や専門知識を学ぶため、専門学校に通い「測量士」の資格を取得。卒業後は父のもとで仕事をしていました。小地測量ではなく大地測量をもっと学んでみたい気持ちが強くなり、技術向上のためサンコンサルに入りました。ここでは河川や道路、用地と仕事は多岐に渡ります。

● 仕事の魅力や責務

父の下では境界確定の為の測量や、建物登記の為の測量がメインでした。そのため、あらゆる問題を視野に入れ、現況を可能な限り細かく観測し成果にしてみました。例えるなら、森に入つて一本一本の木を見ていた感覚です。ですが、今は全体の山を見て、その形や高さを知る必要がある。調査対象となる土地の範囲は調査士業務のそれは異なり広大です。

また、測量は、生活の礎となるもので、そこに最大の魅力と責務があると思っています。安全・安心な建造物やインフラ整備には、正確な測量図面がないと成り立ちません。測量成果が現地と整合性がない場合、仕上がった設計図も不整合なものになります。そのような事態にならない様に、その現場が「何を、どの程度の精度」を求めているのかを把握する事が大

担い手シリーズ 02

接客業から専門職へ、 測量の魅力は 社会的ニーズの高さ

小河 正宜 入社1年目(測量士)
株式会社サンコンサル



切だと考えています。

● 過去の仕事で印象的な出来事

近年の九州は、毎年大きな災害が続きました。最初の現場は被害を受けた冷水峠（飯塚と筑紫野をまたぐ峠）です。頭では大変な現場だと理解していましたが、急斜面を見たときに「ここを歩くのか」と苦笑いしたのを覚えています。

ただ、測量が終わらなければ、設計、工事につながらず周辺住民の日常が戻りません。ライフラインの復旧を強く意識した現場でした。

● 今後の目標

入社して一年目ですので、少しでも多くの現場に出て、経験値を高めることが一番の目標です。今は、あらゆる電子機器が日進月歩で進化しています。複雑多様な流れは測量業界も例外ではありません。既存の機器が新たな技術で進歩するのではなく、新技術が測量の世界にも押し寄せてきています。その波に飲み込まれない様に、技術を身に付け波を乗り越えて行きたいと思っています。

● 趣味や息抜き

時間が許す限り、休日は釣りに出かけます。以前は川や池に出かけていましたが、今は海釣りにまっています。よく竿を出しているのは、唐津・呼子方面です。釣り場で見かけたら気軽に声をかけてください。



小河 正宜 (おがわ まさのぶ)
福岡市出身。株式会社ハートマン退職後、土地家屋調査士補助業務と並行し福岡国土専門学校入学・卒業。
平成30年9月(株)サンコンサル入社。
会社概要
(株)サンコンサル
〒812-0888 福岡市博多区板付2-5-4
TEL092-582-1290 FAX092-582-1291
<http://www.sankonsaru.co.jp>